

8/3 第一回地域モビリティ部会用

共助×共創による、これからの公共サービスの実現

～地域モビリティの目指すべき姿について～



富山県

朝日町

Asahi Town

・HAKUHODO・

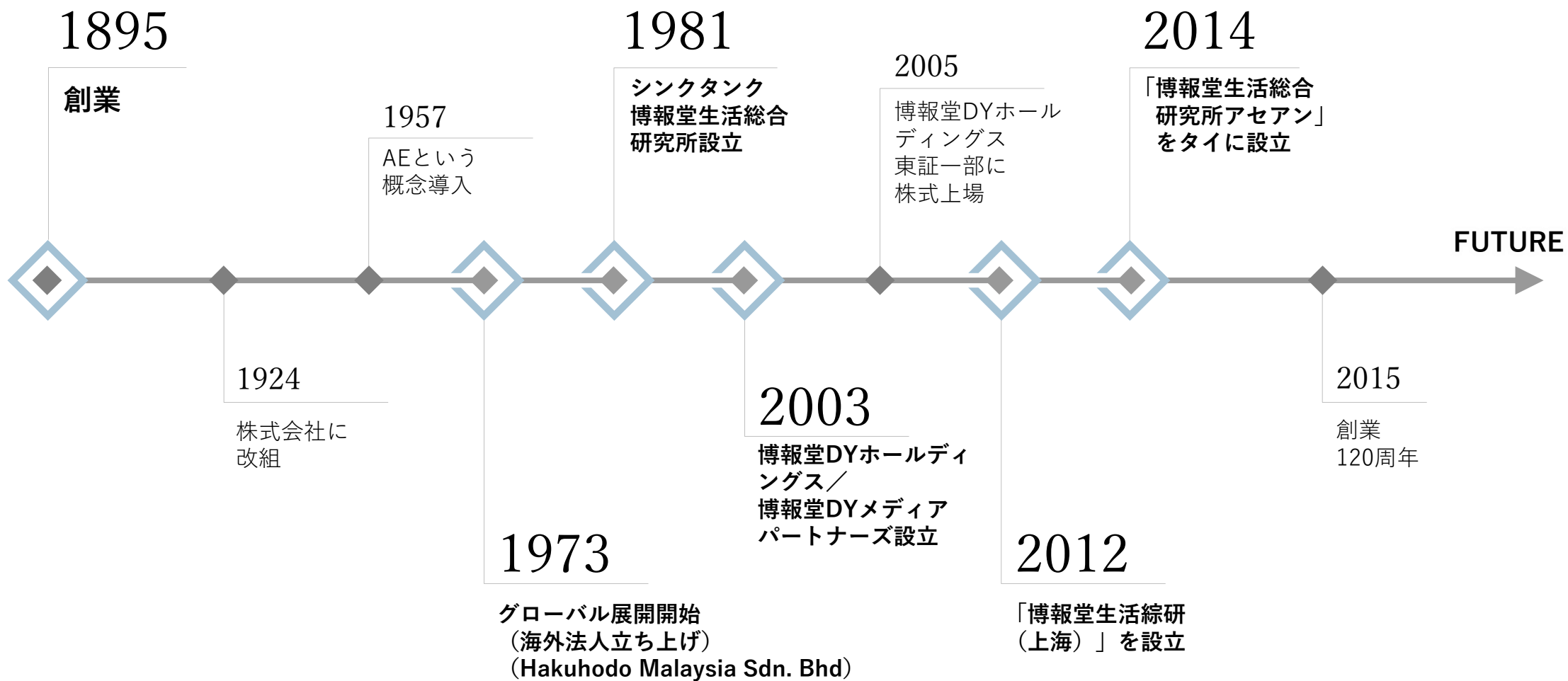
1. 博報堂の紹介

2. 共助型交通「ノツカル」

1

. 博報堂の紹介

1895年に創業



地域で起こっている生活者の課題に対して、
生活者を理解し、マーケティングをしてきた博報堂が貢献できないか？
＝ 広告業転換期における、広告外における新しいチャレンジを朝日町で。

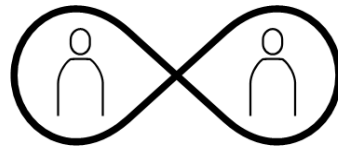
博報堂のフィロソフィー



Sei-katsu-sha Insight

「生活者発想」

人を、単なる「消費者」として捉えるのではなく、主体性を持って生きる「生活者」として全方向的に捉え、深く洞察すること



Partnership

「パートナー主義」

「責任あるパートナーとしてクライアントとともに語り合い、行動し、創造する」こと

+

博報堂の強み

「クリエイティビティ」

「ビジネスデザイン力」

広告領域
マーケティング領域

消費者→生活者視点で / withクライアント

広告外領域
イノベーション領域

社会課題解決 / with地域や社会

2 . 共助型交通「ノッカル」

◇ 朝日町の基本情報

〈位置〉富山県の東端、新潟県との県境の町

〈人口〉11,173人（高齢化率44.6%）

〈世帯数〉4,693世帯

※平成22年に町内全域過疎指定を受け、消滅可能性都市にも！

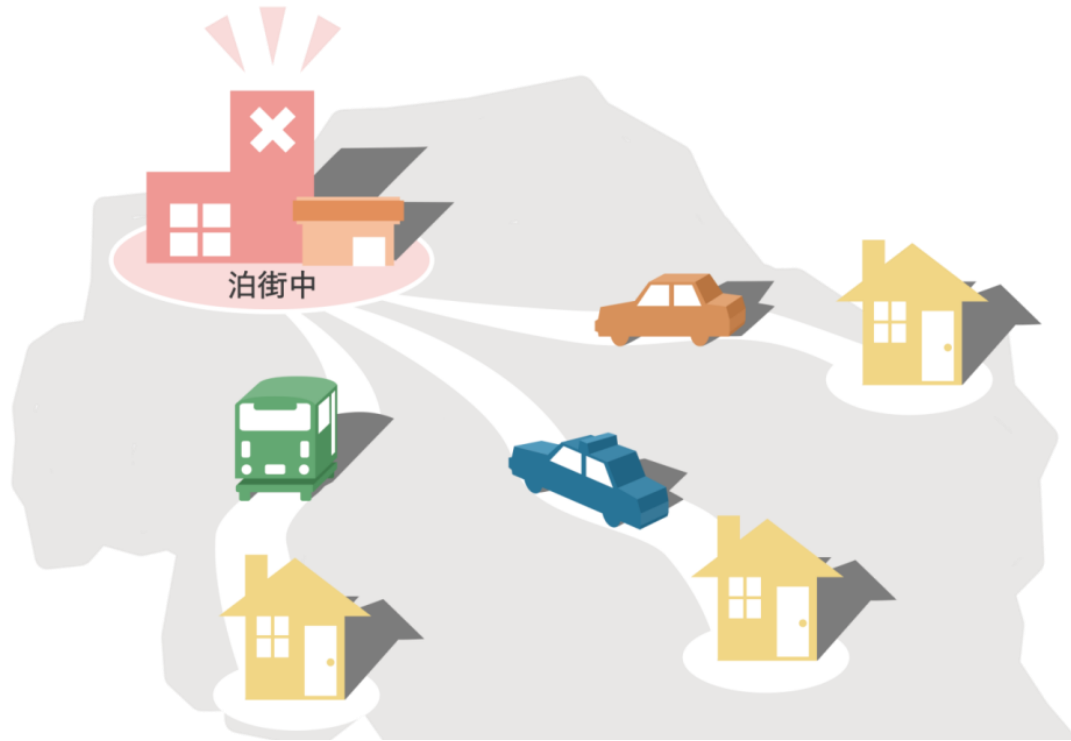
◇ 朝日町の公共交通

町外との往来向け



町内での移動向け





医療施設・商業施設は町中心部に集中

交通手段別に問題が発生

◇ バス

- 車両台数に限りがあり、
地区によって利便性にバラつき
- 高齢化の進展に伴い、
運転手や財源の確保が困難
- 自由乗降方式を採用しているが、
ラストワンマイルの課題あり

◇ タクシー

- 時間や場所の自由度は高いが、
中心から離れるにつれ高額に

▶ 「免許が手放せない」「家族の送迎頼み」

朝日町(行政)



財政負担を抑えながら
町内の移動手段を充足させたい

移動課題解決への想いがマッチ！

免許返納しやすい環境を整え、
公共交通に切り替えて欲しい

黒東タクシー(交通事業者)



朝日町における新たな移動サービスを検討

外部プレイヤーと連携したMaaS実証実験推進協議会を発足



朝日町役場



黒東自動車商会



スズキ



・HAKUHODO・

博報堂

スーパーや病院訪問者など生活者の声をヒアリングし、 移動課題以外の視点の大切さに気付く

■ 朝日町の生活者の声

年を取っておでかけする機会が減って、友達とお話する機会がなくなった

コロナで各種イベントもなくなり、世代を越えた交流がなくなった

健康教室に行けば知り合いと会えるけど、移動すること自体が大変

移動が大変なので、買い物の楽しみが減ってしまった

朝日町の真の課題は、
「コミュニティ」の軟弱化により
「暮らし」の質が低下していること

気づいたポイント

重要なのは暮らし・コミュニティ発想

「交通」の課題ではなく、「暮らし」「コミュニティ」の課題と捉える

「交通事業者」だけでなく、地域「コミュニティ」全体で移動を支える

住民ドライバーがマイカーで運行

- ご近所さんのおでかけに、ついでに乗っかる仕組み
- 専用の車両ではなく、普段のマイカーを活用
- マッチングにスマホを活用



自治体/交通事業者/住民が共創

- 運行主体は自治体
- 交通事業者が運行管理(予約受付/点呼)を実施
→ 事業者協力型自家用有償旅客



「ノッカル」= **コミュニティモビリティ** 地域交通を**地域コミュニティ発想**で再構築する

ついでだから一緒に乗って行ってよ!!!

地域の
ノッカルドライバー

マイカーあり
お出かけ予定あり

地域コミュニティ
昔からある「ついで送迎」

地域の
ノッカル利用者

お出かけしたいけど…
マイカーなし

同じ方向だから一緒に行ければなあ…

「地域コミュニティ内の想い」を、デジタルを活用し可視化

新しいもの／デジタル化ではなく、**利用者が使いやすいサービス設計** = **コストの無駄をなくし、負担の少ない運行が可能**

バスと同じように乗れる

チケット、停留所／ダイヤ=バスと共用／補完



街ゆき → 地区からの出発時間

	月	火	水	木	金	土	日
あさひまちバス 大家庄1	7:00前後	7:00前後	7:00前後	7:00前後	7:00前後	-	-
🚌ノッカル	7:55	7:55	7:55	7:55	7:55	-	-
	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30
あさひまちバス 大家庄2	10:15前後	10:15前後	10:15前後	10:15前後	10:15前後	-	-
🚌ノッカル	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45
	-	12:30	-	-	-	-	-
🚌ノッカル	13:00	-	13:00	13:00	13:00	-	-
	14:10	14:10	14:10	14:10	14:10	-	-
あさひまちバス 大家庄3	14:20前後	14:20前後	14:20前後	14:20前後	14:20前後	-	-
🚌ノッカル	-	15:45	-	15:45	-	-	15:45
	18:30前後	18:30前後	18:30前後	18:30前後	18:30前後	-	-
あさひまちバス 大家庄4	18:30前後	18:30前後	18:30前後	18:30前後	18:30前後	-	-



タクシーと同じ予約オペレーション

電話やLINE予約オペレーター=タクシーと共用



公共交通としての安全設計

ドライバー講習／保険加入／マイカーメンテナンス



代金 = 最低限の感謝の気持ち

バス以上、タクシー未満の運賃とサービス設計

人数	1人当たり片道料金
1人	バス回数券 3枚 (600円相当)
2人以上 (乗合)	バス回数券 2枚 (400円相当)

運賃600円定額 (バス券)

- ↓ 直接の現金支払いNG / 電子決済は高齢者NG
- ↓ 手間賃程度のドライバー報酬 (助け合い精神)
- ↓ ドライバー報酬は地域内商品券で後ほど町から

ドライバーに200円支給

地域に浸透しているノッカル。
ユーザーだけでなく、**ドライバーにとっても心理的効用**が生まれている。



ノッカル認知率 **84.3%**

ユーザーのみなさん



- ノッカルさんって呼んでます。
- 友達と一緒に話しながら出かけられるのが楽しい。
- 予約するのも頭の体操になっていいです。
- お願いすることはあったが、
- 荷物を下ろす手伝いをしてもらったり本当に助かる。
- らくち～の（娯楽施設）の送迎を人にはお願いしづらかった。

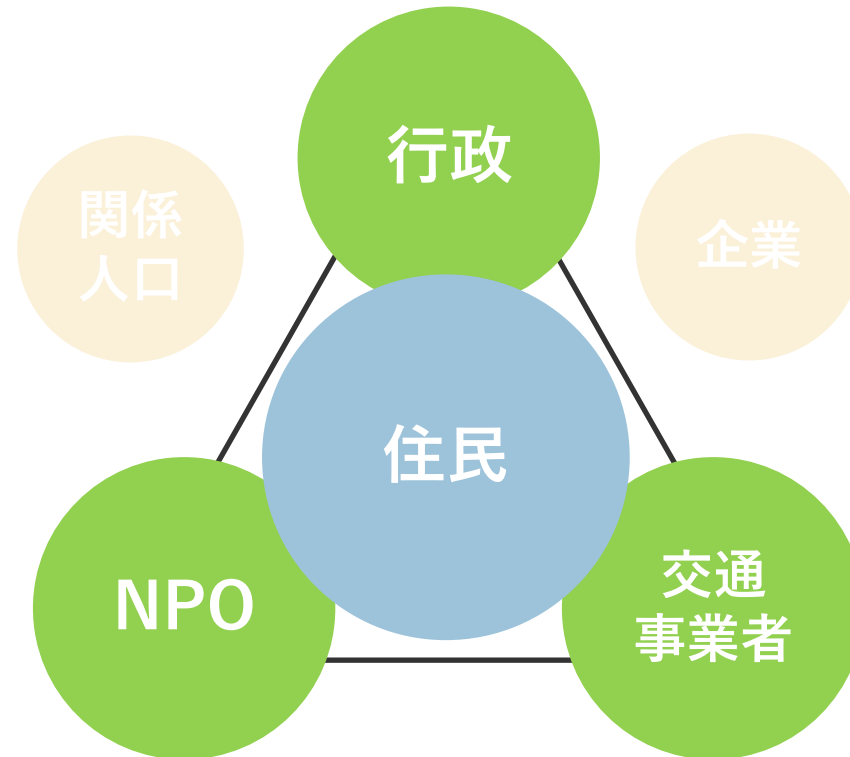
ドライバーのみなさん



- 外から来た人間にとっては「認められる感覚」がある。
- 「ありがとう」と言ってもらえて集落の中での役割ができること、多少でも対価がもらえることが達成感。
- 地域のお役に立てているなら嬉しいです。
- 通勤途中に一緒に行くだけなのでそんな苦にならない。

負担（費用/業務）を誰かに集中させず、 住民を含めた全員参加型で地域全体の交通を作っていく

例) 地域交通の場合



- 交通サービスづくり
- ドライバー
- 運行管理
- 財政負担
- 利用者募集/周知

子どもが習い事に通うための移動手段は、朝日町の大きな地域課題。
各プレイヤー単体では課題解決が難しい。

住民（子ども・親）

仕事・家事の合間で
送迎するのが大変



スイミングに
息子を通わせる
お母さん

歩いて通わせることが難しいので、家事や仕事の合間を縫って送迎をしているが、毎週の送迎はさすがに大変。



小学5年生男子

送迎が大変だから、今やっている野球をやめてほしいとお母さんに言われた。

町・交通事業者

車両準備やドライバー確保に
コストがかかる



町役場の
交通担当

子どもの送迎は課題だが、そのための車両を用意したり、専門のドライバーを確保するのが難しい。



地域の交通
事業者

うちでは習い事の送迎まではフォローできない。人手も車両も足りない。

習い事施設

施設の**送迎サービスのみ**
では限界がある



町のスイミン
グスクール

無料の送迎バスを回しているが、利用者は先着順で、全員が使えるものではない。車両数を増やすのも厳しい。

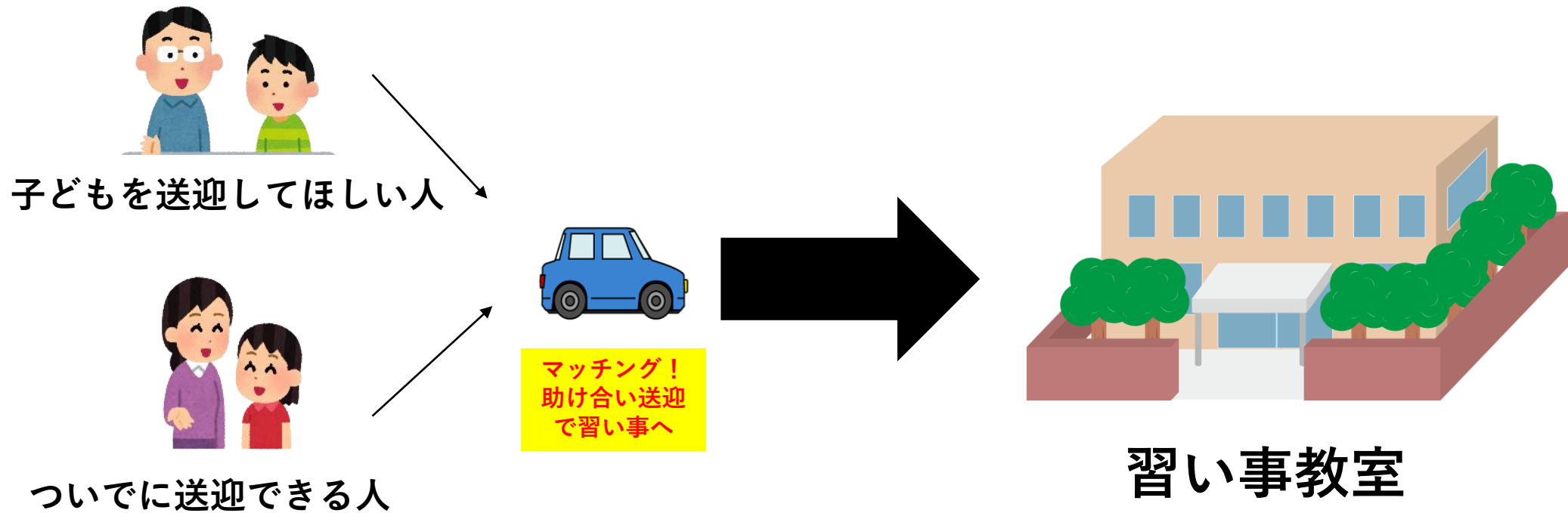


町のスポーツ
クラブ

通っているお子さんのほとんどは、親御さんが送り迎えをしている。

子どもの習い事送迎サービス“こどもノッカル”

地域の習い事事業者と共創し、朝日町の子供の送迎課題を解決



共助・共創の力で、朝日町の子育て層の中でも特に課題感の強い習い事送迎の課題を解決する！

実証実験時のサービスイメージ

町中で最も大規模な習い事教室である、らくち～のスイミングスクールでの実証実験を実施
ついでに送迎できる人と、送迎をしてほしい人のマッチングによる共助送迎

今週は忙しいから、
子どもを送迎してもら
えるとありがたい！

送迎リクエスト



送迎ボランティア

同じ地区の〇〇さん
からリクエストだ！
今週は余裕があるから、
送迎してあげよう！

マッチング！
助け合い送迎で習い事へ

運行主体を行政、
運行管理を交通事業者が行
うことで、安心して送迎

らくち～のスイミング



ドライバー20人を目標に集め、
1日1件の運行実現を目指す！

対象者＝朝日町在住のスイミングスクールに通う人全員
運行エリア＝朝日町域内のみ（実証実験後はエリア拡大も想定）

「ノッカル」と「こどもノッカル」の共通点と違いは？

ノッカル（既存）

こどもノッカル（実証段階）

	ノッカル（既存）	こどもノッカル（実証段階）
共通点	コンセプト	ドライバーは助け合いの形で運行
	車両	住民の普段のマイカーを活用
	体制	行政が運行主体で、交通事業者が運行管理を行う
	安全面	保険や点呼など安全面も担保
相違点	運行時間	朝から夕方までの運行 + こどもノッカル独自の対策 スイミングスクールの時間に合わせて 送迎が必要な 夕方のみ運行
	予約方法	事前に設定された時刻表を見て、電話予約 スマホを使い、 乗りたい人が乗りたい時間を リクエスト
	ドライバー	同じ町内に住む現役世代全体 朝日町内のらくち～のスイミングスクールに 通わせる 親のみ
	行先	町内の施設全体 らくち～の⇔自宅付近の停留所

実証実験後の展開イメージ

らくち～のでの実証実験を皮切りに、**STEP 2**では町全体の子どもの送迎を実現。
さらに、STEP 3では子どもの移動手段を整えたうえで、**新しい教育コンテンツの提供**まで行う

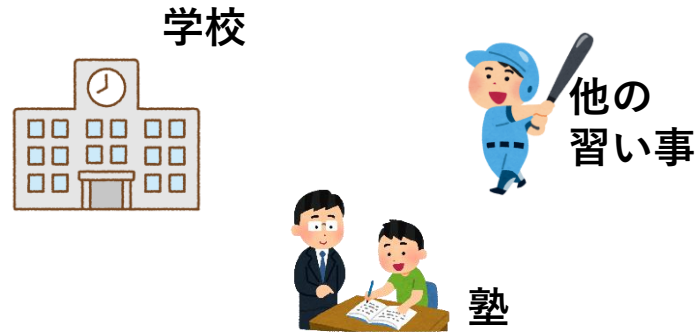
STEP 1

らくち～のスイミング



らくち～の
スイミングスクール
での実証実験

STEP 2



他の習い事や施設にも
広げて、町全体で子ども
の送迎を実現

STEP 3



今朝日町にない習い事や
新しい教育コンテンツの提供

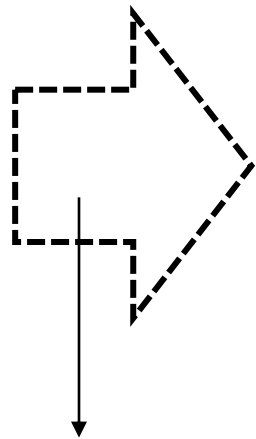
送迎だけでなく、
新しい教育コンテン
ツ提供など、子育て
全体のサービスに

最終的に実現したいこと

子どもたちの移動の手段・選択肢が増えることで、
新たな教育イベントや新しい習い事などにより自由にアクセスができるようになり、
子どもの将来の可能性を広げられる

BEFORE

朝日町の子どもたち



既存の習い事

新しい子ども向け
コンテンツ

移動の足がないと、習い事はもちろん、
新しい子ども向けコンテンツを作っても参加されず、
地方の子育て・教育は変わっていかない

AFTER

朝日町の子どもたち



共助
送迎

既存の習い事

新しい子ども向け
コンテンツ

共助送迎の仕組みで、**子どもの移動手段が増え**、
新しい取り組みに自由にアクセスできるようになり、
朝日町から地方の子育て・教育が変わっていく